

「美しい“ふじのくに”」の みちづくり 概要

「美しい“ふじのくに”」のみちづくりとは

- 社会情勢や道路を取り巻く環境の変化、上位計画である新たな県総合計画を踏まえ、今後県が進めていく道路施策の方向性を示すものです。
- 県総合計画の基本理念『富国有徳の「美しい“ふじのくに”」づくり』に示された「誰もが努力すれば人生の夢を実現でき、幸せを実感できる地域」の実現に向けて推進するものです。

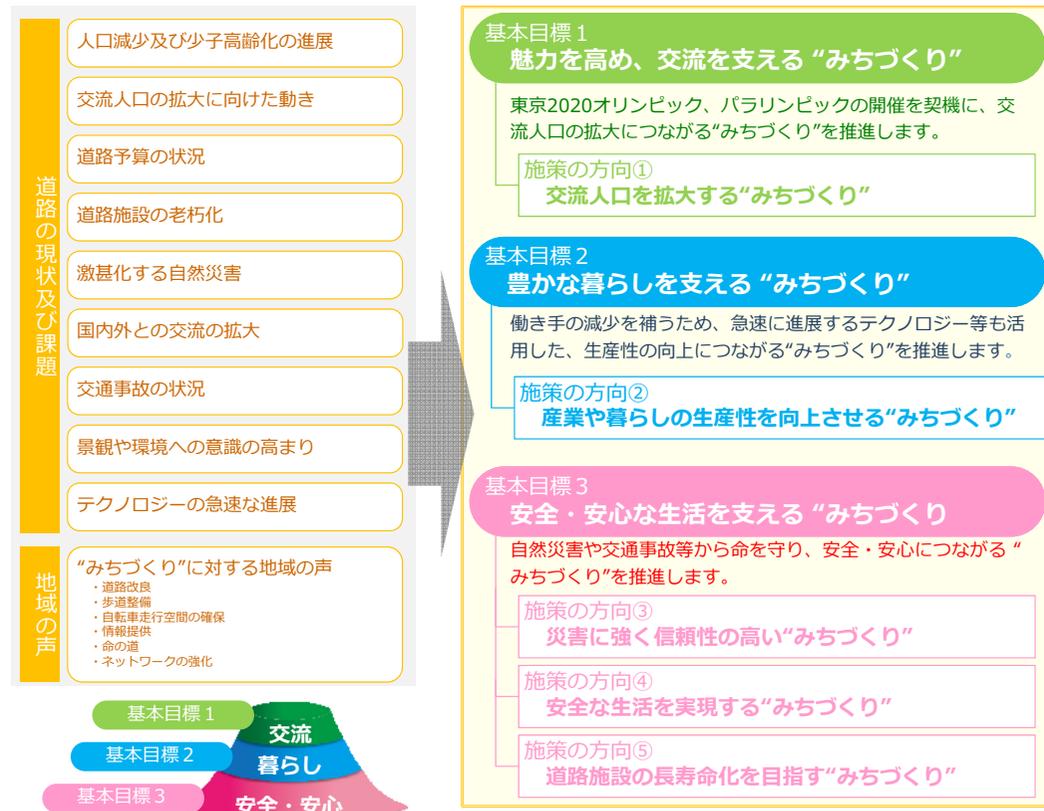
概ね10年間の道路ビジョン

今後の10年間で進める施策の基本理念と基本目標、施策の方向等を示しています。

基本理念

富国有徳の「美しい“ふじのくに”」を支えるみちづくり

ビジョンの体系



施策の進め方

「交流」、「暮らし」、「安全・安心」の3分野における投資の効果を最大化するように、「保全」、「活用」、「整備」のバランスをとる「道路マネジメント」を推進します。

○道路ストックの更なる活用を図ります。

既存の道路空間の再配分



スマートICの整備



○道路ネットワークの構築や交通安全対策等の整備を進めます。

地域高規格道路の整備



交通安全対策(歩道整備)



既存ストックを活用し、効果的に対策を実施

地域の課題解決に必要な整備を早期に実施

活用 (いかす)

整備 (つくる)

投資効果の最大化を図る**道路マネジメント**を着実に実施

道路を安全・安心に使い続けられるように、確実かつ効率的な対策を実施

保全 (まもる)

○道路施設を効率的かつ確実に管理し、保全します。

橋梁補修



トンネル点検



橋梁の耐震対策
(落橋防止装置の設置)



道路の法面の防災対策



4年間の道路重点計画

平成30年度以降の4年間（2018年～2021年）に重点的に取り組む施策を策定しました。

魅力を高め、交流を支える“みちづくり”

◆景観に配慮した道路整備やわかりやすい道路案内標識の整備

【景観に配慮した道路施設の整備】



国道135号<伊東市>

【無電柱化】



県道三島停車場線<三島市>

◆交流を支え環境に配慮した道路整備

【自転車走行空間の確保】



県道鷹岡富士停車場線<富士市>



県道沼津土肥線<富士市>

【歩道のユニバーサル化】



県道三島停車場線<三島市>

【富士山マイカー規制】



富士山スカイライン<富士宮市>

豊かな暮らしを支える“みちづくり”

◆IC・空港・港湾・工業団地等へのアクセス道路の整備

【高規格幹線道路等の整備】



◆交通円滑化を図る渋滞対策等

【長大橋の整備】



県道富士由比線<新々富士川橋>

【バイパス整備】



◆道の駅やスマートICの設置・活用による地域活性化の推進

【道の駅の整備】



道の駅<くるら戸田>



【スマートICの整備】



東名<日本平久能山スマートIC>



東名<足柄スマートIC>

安全・安心な生活を支える“みちづくり”

◆高規格幹線道路の整備促進

【高規格幹線道路の整備】



伊豆縦貫自動車道<天城北道路>



中部横断自動車道<吉原高架橋>

◆地域の孤立等を防止する防災機能の強化

【道路法面の防災対策】



県道藤枝黒俣線<藤枝市>

【橋梁の耐震対策】



国道414号<三園橋>

◆安全な道路環境を確保する交通安全対策

【カラー舗装】



県道稲取港線<東伊豆町>

【歩道設置・バス待機場確保】



県道大東相良線<御前崎市>

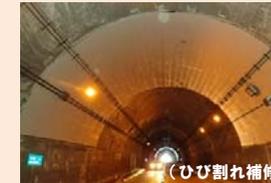
◆道路施設の適切な維持管理

【橋梁補修(塗装)】



県道大東相良線<国安橋>

【トンネル補修】



国道136号<新安良里トンネル>

進捗管理

取組の進捗状況を評価指標により把握するとともに、ストック効果等により効果を検証し、道路施策に反映していきます。

評価指標

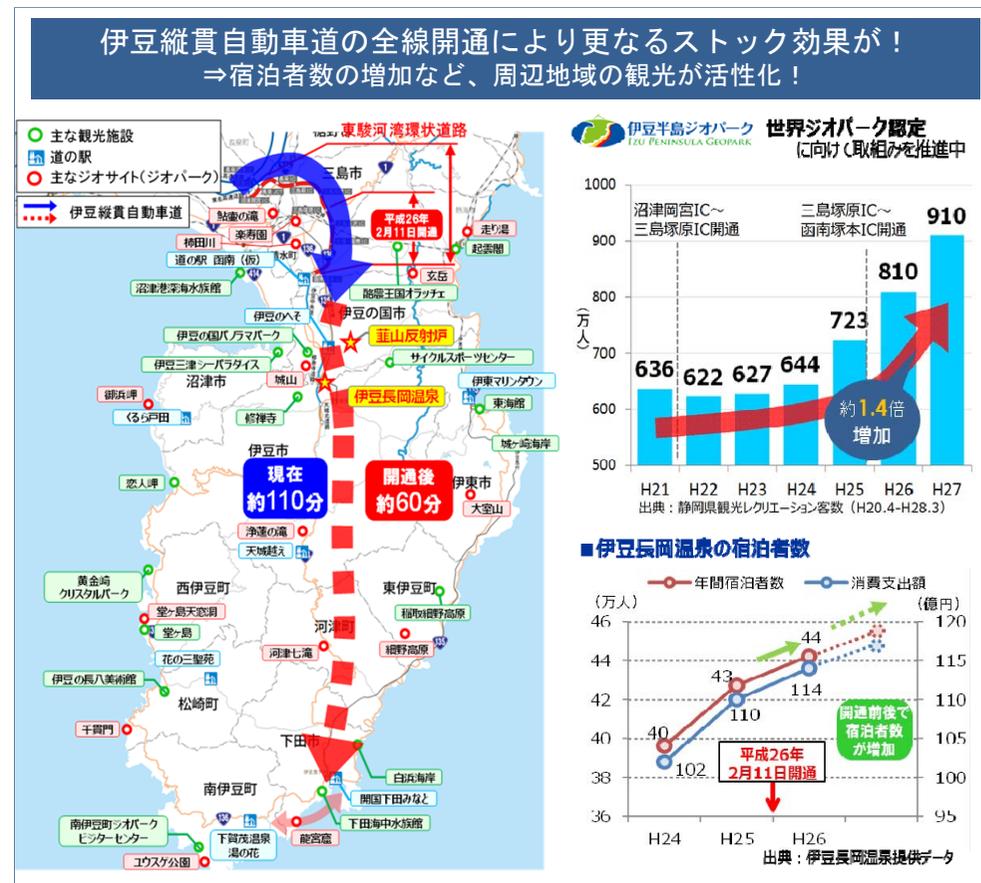
12の評価指標と目標値を設定し、達成度を定期的に確認することにより、事業の進捗状況を管理していきます。

評価指標	期待される効果	現状	目標値
共通	①地域の基幹となる道路の供用率 現在整備中の高規格幹線道路、地域高規格道路及びICアクセス道路の計画区間のうち、供用している道路の割合	63.7% (196.2km) (2016)	77.7% (239.6km) (2021)
	②高規格幹線道路の供用率 高規格幹線道路の計画区間のうち、供用している道路の割合	78.5% (359.6km) (2016)	87.2% (399.8km) (2021)
	③高規格幹線道路へのアクセス道路の供用率 県が整備している地域高規格道路及びICアクセス道路の計画区間のうち、供用している道路の割合	62.3% (22.0km) (2016)	71.4% (25.2km) (2021)
交流	④無電柱化実施率 静岡県無電柱化推進計画に位置づけられた区間（電線管理者と合意済み）のうち、無電柱化工事に着手した割合 ※平成30年度に新規計画を策定するため、策定後に変更します	43% (20km) (2016)	84% (39km) (2021)
	⑤道路案内標識の改善率 古い基準で表記されているローマ字表記などを改訂した標識の割合	— (2016)	100% (算定中) (2021)
	⑥自転車走行環境整備率 矢羽根型路面表示など、自転車走行空間の計画延長のうち、走行空間を確保した延長の割合	37.5% (213km) (2016)	100% (568km) (2021)
暮らし	⑦渋滞対策実施率 地域の主要な渋滞箇所のうち、交差点改良やバイパス道路の整備などの渋滞対策を実施した箇所の割合	37.5% (18箇所) (2016)	100% (48箇所) (2021)
	⑧高速道路の平均IC間隔 東名高速道路及び新東名高速道路における平均IC間隔	10.0km (2016)	8.8km (2021)
安全・安心	⑨重要路線等にある橋梁の耐震化率 古い基準を適用した橋長15m以上で管理上重要な橋梁のうち、耐震対策を実施した橋梁の割合	63% (363橋) (2016)	100% (576橋) (2022)
	⑩道路斜面の要対策箇所の対策実施率 緊急輸送上の事前通行規制区間内にある、H8防災点検要対策箇所のうち対策を実施した箇所の割合	72.2% (135箇所) (2016)	83.4% (156箇所) (2022)
	⑪通学路合同点検に基づく対策実施率 県管理道路において、通学路合同点検に基づき選定された要対策箇所のうち、対策を実施した箇所の割合	57.4% (116箇所) (2016)	100% (202箇所) (2021)
	⑫長寿命化計画に基づく対策実施率		
	◆橋梁 法定点検（2018年度末までに実施）で「早期措置段階」と判定された県管理橋梁のうち、対策を実施した橋梁の割合	20% (2017推定)	100% (2022)
◆トンネル 法定点検（2018年度末までに実施）で「早期措置段階」と判定された県管理トンネルのうち、対策を実施したトンネルの割合 ※「早期措置段階」：構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき段階	35% (2018推定)	100% (2022)	
◆舗装 県管理道路におけるアスファルト舗装のひびわれ率 ※数値が低いほど健全度が高い。	27% (2017)	26% (2022)	

事業効果の検証

みちづくりのストック効果(企業立地件数、観光交流客数等)の分析やみち～満ち・充ちミーティング等で地域の声を確認することにより、事業の効果を検証します。

●ストック効果の例（伊豆縦貫自動車道）



※ストック効果事例集「伝えたい、静岡県、土木のチカラ。」

http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-030/doboku_stock.html 参照

●地域の声

地域の方々や道路利用者と意見交換する「みち～満ち・充ちミーティング」、県民へのアンケート等により、事業の効果を検証してまいります。